

ジュニア広報 ならた

第57号
(平成14年1月15日発行)



編集・発行
成田市教育委員会 / 〒286-8585 花崎町760番地 ☎22-1111 大代表

がっこう 学校で見つけた小さな思いやり

まめきしや
豆記者のみなさんに「学校で見つけた小さな思いやり」というテーマで記事を書いてもらいました。学校でのさまざまな活動の中でふれた思いやりについて紹介します。

こころ 心がほかほか

ひるやす
昼休みのことです。校庭で遊んでいた1年生の女の子が転んでひじをすりむいてしまいました。私が声をかけるより早く5年生の女の子がその子のそばに行って「大丈夫?」と助け起こしました。



そして「痛くない?」などと聞きながらその手を引いて校舎の中に入っていました。きつと保健室へ連れていったのでしよう。

わたし
私は、その様子を見ていて心が温かくなるのを感じました。

このように豊住小は、上級生が自然に下級生の世話をする様子がたくさん見られる温かい学校です。

豊住小 大木 英梨子

め 目の不自由な方と 交流して

ぼくたちの学年では、目の不自由な方と交流しています。案内の仕方を調べて学校内も案内しました。



だが、実際に交流してみると初めて知ったこともあり、目が不自由でもいろいろなことができるんだなど驚きました。もっと、ぼくたちにできることはないかと思い、本やインターネットで介助の仕方を調べ、ブラインドウォークをして練習しました。「何かお手伝いすることはありますか」この言葉をこれからは、ためらわずに進んでかけたいと思います。目の不自由な方が、「一緒にスポーツがで

きるといいな」と言っていたので、今度やりたいです。

平成小 高木 洋利

まも お守りと てるてるぼつず

修学旅行の前日、ぼくたちに小さな1年生から心のこもったお守りが届きました。「元気に登って来てください」「登山のときに晴れますように」「1年生の願いのこもったものでした。4月からペアを組み、ずっと面倒を見てきた1年生の笑顔が浮かんできて、うれしく思いました。おかげで修学旅行では雲一つない晴天で、だれ



ひとり一人けがもなく茶臼岳を楽しく登ることができました。

お返しに1年生の遠足のとて、てるてるぼうずのお守りをあげました。ぼくは、1年生と6年生の心がつながった気がしました。

吾妻小 依田 卓也

「なかよしアート」で もっと仲よし

私たちの学校では、授業前の仲よし活動や全校遠足をはじめ、昼のそうじ、運動会でのなわとび競争など、1年生から6年生を16の班に分けてのたて割班活動に取り組んでいます。



最初はとても遠慮がちでしたが、今では行き交うと声を掛け合う程の仲よしになりました。

先日は、たて割班ごとに粘土工作や、版画、木の実やペットボトルなどを利用した作品作りを全校に教える「なかよしアート」の活動を行いました。高学年の人たちが低学年をやさしくお世話する姿があちこちで見られました。

加良部小 小林 静佳

たて割班で 遊ぶ集い

ぼくたちの学校では、たて割班でそうじをしたり、一緒に遊んだりしています。11月には、おもちゃをみんなで作って遊ぶ集いをしました。ぼくたちの班は、輪投げを作りました。1年生にもできるように、見本を作った。1年生にもできるよう、見本を作った。1年生にもできるよう、見本を作った。

は、おもちゃをみんなで作って遊ぶ集いをしました。ぼくたちの班は、輪投げを作りました。1年生にもできるように、見本を作った。1年生にもできるよう、見本を作った。1年生にもできるよう、見本を作った。



しそうな顔を見たら、ぼくまでうれしくなりました。

このころ、何かをするとき、下級生のことがいろいろと心配になるし、遠くからでも手を振ってくれる1年生を見ると元気がでます。

三里塚小 桃木 良

1年生の笑顔

本城小学校では、1年生から6年生までが一緒になって活動する仲よし班があり、長縄とびの大会をめざして、4月から練習を続けてきました。

初めは、縄に入るタイミングを1年生に教えてあげるのが大変でしたが、私たちの励みが通じてとべるようになりました。

「お姉ちゃん、とべたー」と私に満点の笑顔を見せてくれたことが忘れられず、1年生との交流は、今も昼休みの遊びにとつながっています。

本城小 穴倉 香奈子



小さな思いやり

私たちの学校は、全校児童43人と人数が少ないので、1年生から



6年生をたて割にして6つの班でそうじをしています。

各班とも高学年が低学年の面倒を見ながら、そうじの仕方などを教えています。

外そうじのときなど、体の小さな1年生が竹ぼうきを上手に使用に困っていると、高学年の人が使い方を教えてあげたり、一緒にはいてあげたりしている姿をよく見かけます。

相手の立場を考えてあげることで、低学年と高学年のきずなが深まっていることを感じます。

東小 河野 幸子

学校での 優しい一言

その日、私は朝から具合が悪く、学校へ登校しても良くなかったので早退することになりました。帰る準備をしていると、「大丈夫？途中で持つてあげるよ」と一人の友達が声をかけてくれました。

話をしながら歩いていると、次の授業の始まりを告げるチャイムがなりました。「ごめん、行くね」と友達はずまなそうに教室に戻っていきましました。

私の周りには、優しいや思いやりがたくさんあふれています。そんな仲間を大切に、私もさりげない思いやりの心を持った人にな



りたいと思います。

吾妻中 茅場 麻紗美

一言の応援で



私は、テニス部に所属し、1年のときは、「声を出して」と先輩に注意されていました。私は正直

「声出しなんてどうでもいいこと」と思っていました。でも自分が試合に出たときに、みんなから「ナイスボール」「よし、ラッキー」などと応援をしてもらいました。その声に励まされ、「もっとがんばろう」という気持ちになり勝つことができました。



応援団の努力

ました。これはみんなの力で得た勝利です。一人ひとりの小さな思いやりの言葉が、その人のやる気を引き出します。これからも「思いやり」の気持ちを大切にしていきたいと思っています。

久住中 阿部 明日美

ミエナイチカラ 見えない力

11月2日、成田市の国際文化会館で遠山中学校毎年恒例の合唱コンクールがありました。ぼくたちの2年D組は惜しくも学年賞をとれませんでした。みんなが悲しみ、泣いているときに、ひととき悲しみに暮れている人がいました。彼はぼくらの指揮者でした。彼こそ一番合唱に力を注いでいました。彼はいつでも見えないところで、毎日毎日指揮棒を振っていました。『どうして人がいない所でやって

今年の体育祭で最も盛り上がったのは、「応援団」です。応援団は朝早くから夕方遅くまで、毎日練習していました。声がかれているのに、それでも必死に声出している人、体がくたくたになっ

らなければという気持ちになり、みんなの心が一つにまとまりました。応援団の努力のおかげで、全校生徒が思いやりの心を持って取り組む、すばらしい体育祭を創り上げることができたのだと思います。

中台中 鈴木 隆広



いるんだ」と思っていました。彼はそんな事どうでもいいといった様子でした。指揮をしている彼の背中からは、いつも、思いやり、優しさがあふれています。そんな彼と共にぼくらは今も歌っています。

遠山中 藤崎 圭吾

改めてふれた 思いやり

わたしは、2回ほど足を骨折したことがあります。1回目は文化祭直前のときです。とても忙しい時期にもかかわらず、病院へ付き添ってくれて、しかも、家まで送りとどけてくれた先生と友達「大丈夫?」「痛まない?」など声をかけてくれ心配してくれたことは、とても嬉しく思いました。その後、2回目にけがをしたときの学校生活も、移動教室で友達を遅れさせてしまったり、そのほか



にも多々迷惑をかけたりにしてしまいました。「二度あることは」よく言いますが、もう二度とそんなことにはなりたくはありません。お医者さんによると、「次やったら手術、だそうなので...」成田高校付属中 及川 あゆみ

声をかけられ うれしかった

私は、4月に玉造小学校に転校して来ました。最初のうちは、クラスのみんなとあまり話ができませんでした。

「いっしょに遊ぶうよ」と休み時間にさそってくれたり、「ここがわからないの? 教えてあげ」と勉強を教えてくれたり、みんなが、やさしく声をかけてくれたときのうれしさは忘れられませんが、キュッとこたえた心が、やわらかくなって、「明日もこうだ」といいたく学校って楽しいな、そのとき初めて思いました。これからは、私からもいろいろな人に声をかけ、仲よしの輪を広げたいです。

玉造小 岸田 あゆみ

笑顔の花が 咲いたよ

ぼくたちの学校では、毎年11月に「お年寄りを囲む会」をします。地域のお年寄りを招待して全学年が演奏や演技を披露する会です。今年、ぼくたちは「お笑い」をしました。コントや曲芸に、拍手がささいで、みんなとても喜んでくれました。プログラムの最後に「おはやし」の演奏がありました。迫力ある太鼓の演奏で、おじいちゃんたちがとても真剣に聴いてくれました。どの学年の発表も心のこもった内容で、会場いっぱい、やさしい笑顔があふれていました。ぼくはおじいちゃん、おばあちゃん



からもらった温かい笑顔と拍手を忘れません。中郷小 桜井 陽太



「人権の花」に 願いをこめて

11月19日に向台小学校で「人権の花」の贈呈式が行われました。「人権の花」って何? みんな不思議に思っていました。式で佐倉人権第二部会の方にお話を聞き、みんな仲よく明るい気持ちで学校生活を過ごすことの大切さをこめた花、これが「人権の花」であることがわかりました。贈られたシャクヤクは毎年春に咲くとのことなので、児童会が中心となり、6年生のつくった人権標語

”やさしさと思いやりから咲く未来の看板とともに苗木を植えました。”

「人権の花」は向台小の心の支えとなり咲き続けると思っています。向台小 永本 夕貴



あとがき

毎日の学校生活での何気ない一言や授業、学校行事、部活動など、さまざまな活動の中で、「小さな思いやり」がますます満ちあふれる学校であることを願っています。